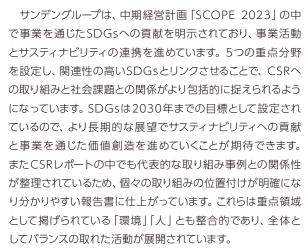
第三者意見

北田皓嗣(きただ ひろつぐ)

法政大学経営学部准教授

神戸大学博士(経営学)。日本MFCAフォーラム運営委員。ISO/TC207/WG8/エキスパート。会計学を専 門とし、環境管理会計の普及と浸透に関する研究を重ね、現在は日本MFCAフォーラムが主催する「SDGs 研究会」にアドバイザーとして参加するなど、サスティナビリティ経営に関するテーマにも活動の幅を広げ ている。主著に「創発型責任経営」(日本経済新聞出版社)など。



長年にわたりMFCA (マテリアルフローコスト会計) への取り 組みを進められてきていることは、サンデングループの環境へ の取り組みの中でも特筆すべき点であるといえます。欧州で サーキュラー・エコノミー政策が進められるなかで、資源利用へ の関心は世界的にも改めて高まってきています。また「省資源・ 省エネルギー・持続可能な企業経営のための研修」を通じて、 バングラデシュを中心とした海外からの参加者に向けてMFCA の研修が行われている点も高く評価できます。ISO14051と して国際標準規格が発行されて以降、途上国を含む多くの国 でMFCAへの関心が高まってきました。グループ内での展開



のみにとどまらないMFCAの普及活動は、国際社会への貢献 度が高い取り組みであるといえます。

重点領域としてもうひとつ挙げられている「人」について、従 業員の働きやすい職場環境が整えられています。 ダイバーシティ への取り組みについては明確な目標を設定され、進捗が管理 されています。ワークライフバランスについても充実したキャリ ア支援制度が設定されており、従業員の多様な働き方を支援 する体制が整えられています。そして「健康経営優良法人(ホワ イト500)」にも選出されているように、サンデングループの取 り組みは社会的にも高く評価されています。

2018年度にスタートした「第4次中期環境基本方針」につ いて、今年度は概ね計画通り活動が進捗していました。社会活 動の目標についても、「お客様」「社員」「株主・投資家」「地域 社会」「お取引先様」のそれぞれについて、堅実な取り組みを展 開されています。今後の課題は、中期経営計画でも掲げている SDGsとの関係性を、中期計画や年度ごとの活動の目標と結 びつけていくところにあります。サンデングループでは重点課題 として位置付けられている「環境」「人」に対して積極的な活動 が展開されています。これらを社会的に確立されたSDGsなど とどのように関連付けていくのか、またサンデングループの活 動を通じてさらなる貢献ができる領域はあるのかといった点を 整理することで、より有意義な成果が生まれることが期待でき ます。

第三者意見を受けて

CSRレポート2019より、サスティナビリティ経営の研究にも幅を広げる法政大学北田皓嗣先生に、第三 者意見をお願いしました。当社の取り組みに対し、貴重なご意見とともに今後に向けたご提案をいただき、 御礼を申し上げます。サンデングループとしての重点課題「環境」と「人」への取り組みでは高い評価をい ただき、今後の活動にも弾みがつきます。また、当社は、新中期経営計画「SCOPE 2023」でSDGsを経 営に組み込み、CSRとしてその実現に貢献すべく取り組むことを宣言しました。これは、自動車機器事業で 成長を目指す当社にとって、企業の付加価値を向上させる重要な取り組みのひとつです。今回ご提案いただ きました示唆のとおり、社会課題と事業活動の関連付けを早期に具体化して戦略的なCSR活動を推進し、 ステークホルダーの皆様から信頼される企業の実現を目指してまいります。



執行役員 総務法務本部長 寺尾 博己